

FKR ARTICLE編集部が調査主体となり独自で行った調査会社によるアンケート結果の客観的なデータを活用し、消費者金融カードローンでお金を借りたことがある方に焦点を当てて再分析を行い、その結果を当資料にまとめました。

アンケート調査概要

調査目的	カードローン利用経験がある方の利用状況・属性等を分析するためにアンケート調査を実施。
調査地域・対象	全国47都道府県の男女においてお金を借りた経験がある方 ※お金を借りた経験がある方の中から消費者金融カードローンを利用した方を優先抽出し、その回答結果を基に分析。
調査方法	インターネット調査（スクリーニング調査→本調査分割） ※サンプルサイズ：スクリーニング調査：n=10,000ss / 本調査：n=1,000ss ※モニターからランダムに抽出
有効回答数（総回答数）	1,052名（3,532名） ※そのうち、消費者金融の利用経験があると回答した方の回答を抽出しています。
調査期間	2024年3月26日～2024年3月28日
調査主体	FKR ARTICLEコラム編集部
記事	お金借りるアプリ22選！少額融資を受けれるスマホのアプリはある？

※当アンケート調査は、一般社団法人日本マーケティング・リサーチ協会が公開している[マーケティング・リサーチ綱領](#)や[調査マネジメント・ガイドライン](#)・[インターネット調査品質ガイドライン](#)などの各種ガイドライン、[個人情報保護法](#)などの日本国内の法令に従って、専門の調査会社により実施されています。アンケートの回答から個人が特定されることはありません。

※当資料は調査会社によるアンケート調査結果を元に、FKR ARTICLEコラム編集部が編集・作成しています。

※年齢・個人年収・職業・家族構成・地域などについてはアンケート回答時の情報を記入していただいておりますので、借入時の情報とは限らないことをご留意ください。

※当編集部では、以下のWebサイトなどの信頼性が高い情報源を参考にコンテンツ作成をしています。

参考・引用元：

- 金融庁 貸金業者登録一覧 (PDF) : <https://www.fsa.go.jp/menkyo/menkyoji/kasi.pdf>
- 日本貸金業協会 協会員名簿 : https://www.j-fsa.or.jp/association/member_info/
- 貸金業利用者に関する調査・研究 <https://www.fsa.go.jp/common/about/research/20230616/01.pdf>
- 一般社団法人 全国銀行協会 <https://www.zenginkyo.or.jp/news/2018/n8951/>
- 中央行政 オープンデータポータル <https://data.e-gov.go.jp/info/ja/top>
- 貸金業者各社の公式Webサイト

アンケート調査結果と分析内容

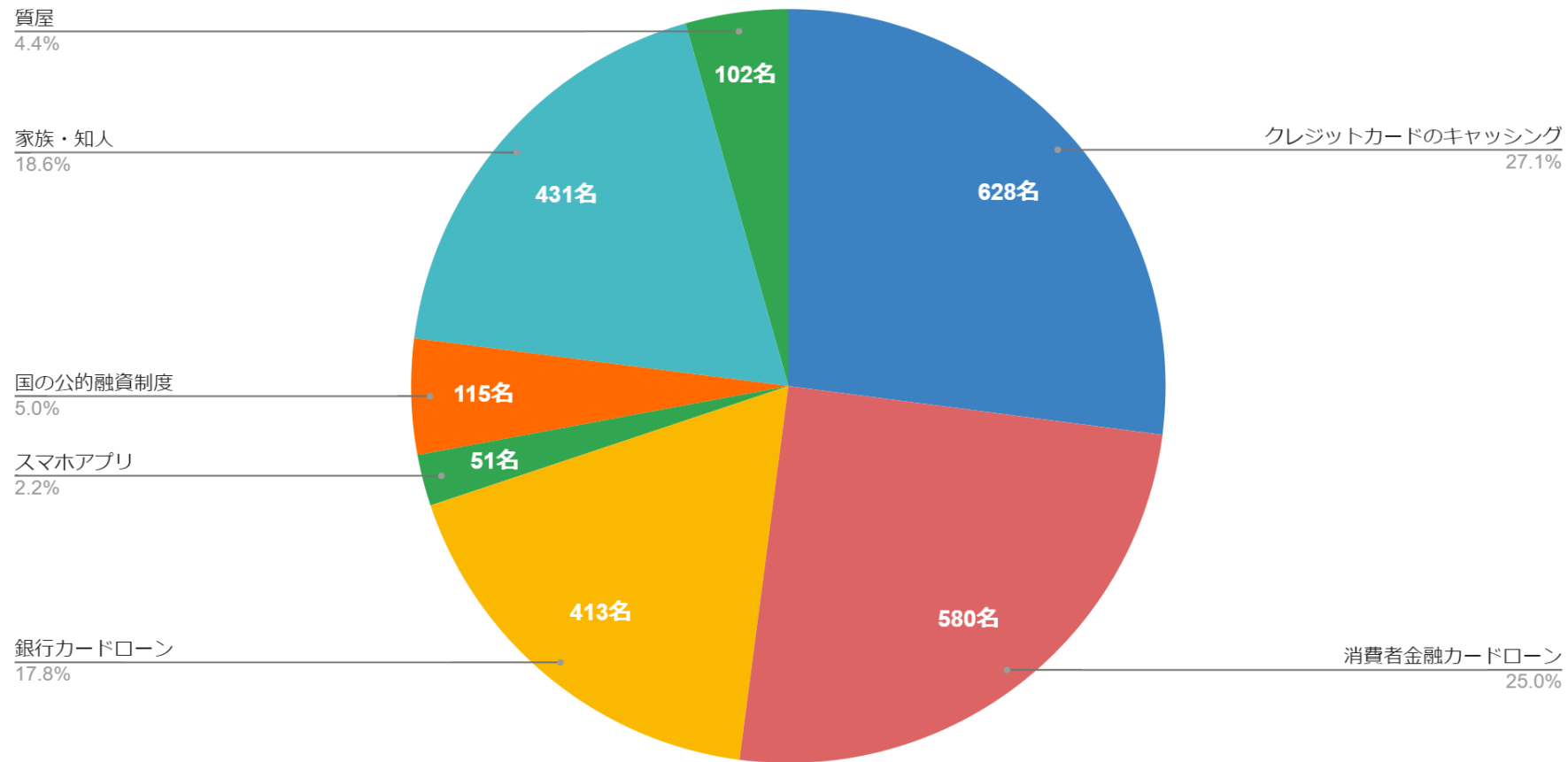
1. はじめに：今までに必要なお金が足りなかった際にどのように対処したか
2. 消費者金融カードローン利用者の基本情報
 - 2.1. 消費者金融利用者の男女比
 - 2.2. 消費者金融利用者の年齢層
 - 2.3. 消費者金融利用者の雇用形態・年収
 - 2.4. 消費者金融利用者の家族構成
3. 消費者金融カードローンについて
 - 3.1. 借入の際に選んだ消費者金融の割合
 - 3.2. 各消費者金融別の選んだ理由
 - 3.2.1. アコムを選んだ理由
 - 3.2.2. プロミスを選んだ理由
 - 3.2.3. アイフルを選んだ理由
 - 3.2.4. レイクを選んだ理由
 - 3.2.5. SMBCモビットを選んだ理由
 - 3.3. 消費者金融から電話連絡はあったか
 - 3.4. 消費者金融カードローンの利用・使用用途
 - 3.5. 返済方法別の返済期間がどれくらいかかったか

- 3.6. 毎月の返済額と、その額で返済期間がどれくらいかかったか
- 4. アンケート調査のまとめ・総評
 - 4.1. 最も多かった性別・年齢層は50代男性
 - 4.2. 50代男性がよく利用する消費者金融カードローンは「アコム」と「プロミス」
 - 4.3. 50代男性が消費者金融カードローンを選ぶ理由は「融資が早い」「手続きが早い」から
 - 4.4. 50代男性の消費者金融カードローンの使用目的は「生活費」が最多

はじめに：今までに必要なお金が足りなかった際にどのように対処したか

まずはじめに、スクリーニング調査で「今までに必要なお金が足りなかった際にどのように対処したか」を3,532名の方にアンケートを行いました。その結果、1052名の方がお金が足りなかった経験があり、なんらかの形でお金を用意したという回答がありました。

どういう手段で対処したかを尋ねたところ、以下のグラフと表の結果が得られました（重複回答可）。



クレジットカードのキャッシング	628名
消費者金融カードローン	580名※
銀行カードローン	413名

スマホアプリ	51名
国の公的融資制度	115名
家族・知人	431名
質屋	102名
その他	4名

一番多いのがクレジットカードのキャッシング機能でお金を用意したという回答で、次いで多かったのが消費者金融カードローン、銀行カードローンということがわかります。

お金を足りなくなった時には、家族や知人など身の回りの人にお金を一時的に借りる人が多い印象がありますが、実際は、クレジットカード会社や消費者金融などの貸金業者から融資を受ける場合が多いということがわかりました。

クレジットカードのキャッシング機能は、最初から契約している人は追加の審査なしで借り入れすることができますが、契約していない場合は借り入れまでに時間がかかってしまいます。また、[銀行カードローンは警察庁の暴力団情報データベースを照会](#)するなど、厳格な審査が必要ということもあり審査～融資までに時間がかかってしまいます。

一方で消費者金融カードローンにはそういった制約はないため、審査体制が整備されている大手消費者金融であれば融資までが最短3分～30分程度で借り入れ可能です。お金が足りない場合に急いで借り入れまで進みたいという方には消費者金融が適しているのいえますので、ここでは、必要なお金が足りなかった際の借り入れ先に消費者金融を選択された方の回答を抽出し、複数の項目に分けて分析をしていきます。

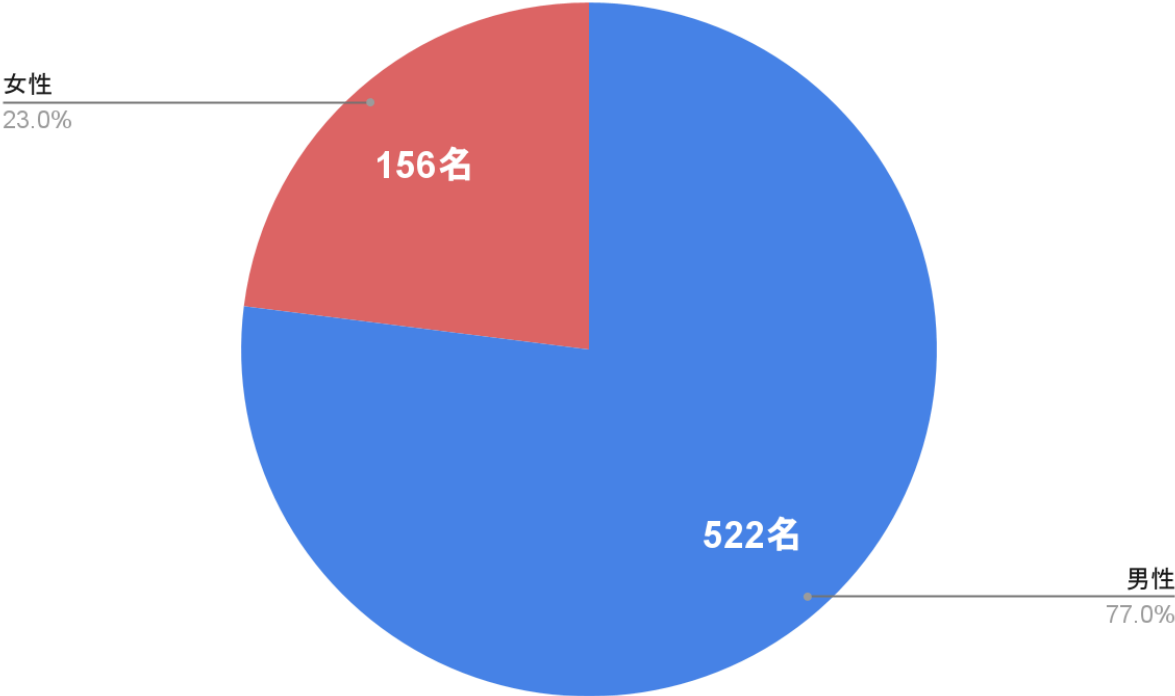
消費者金融カードローン利用者の基本情報

スクリーニング調査を行ったのちに、そこで抽出された1052名の方に再度本調査を実施しました。

その際に「消費者金融の利用経験について教えてください。」という設問を用意したところ、「一度だけ利用したことがある」と答えた方が238名、「何度も利用したことがある」と答えた方が440名、その他が16名、「利用したことがない」と答えた方が358名でした。

スクリーニング調査時の回答漏れの可能性も考慮し、「一度だけ利用したことがある」「何度も利用したことがある」と回答した合計678名の方を消費者金融を利用したことがあると推定し、消費者金融利用者の基本情報についてグラフと表で可視化します。

消費者金融利用者の男女比



男性	522名 / 77.0%
女性	156名 / 23.0%
合計	678名

※アンケート対象者全員に性別を「男性・女性・その他」から選んでいただき、その中で消費者金融を「一度だけ利用したことがある」「何度も利用している」と回答した全員を対象に、男女比を算出しています。ジェンダーの多様性に配慮し「性別：その他」を用意しておりましたが、回答はございませんでしたので上記のグラフと表には含まれておりません。

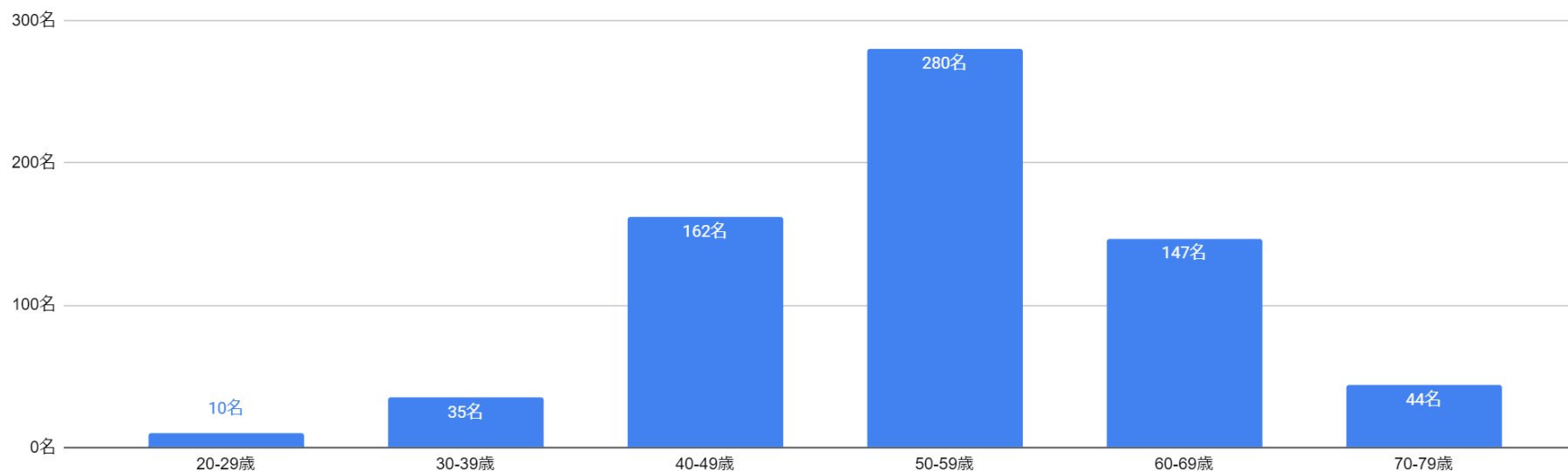
今回の調査結果では、消費者金融カードローンを利用した男性が522名（77.0%）・女性が277名（23.0%）と約8：2の結果となりました。

女性のほうが極端に消費者金融を選ばないように見えますが、本調査対象となったお金を借りた経験がある1,052名中、男性が775名（73.7%）・女性が277名（26.3%）という結果を見ると、女性のほうがお金を借りる経験が少ないか、女性からのアンケート回収の割合が低かった可能性もあります。

事実、日本貸金業協会が2020年11月30日に公表した「資金需要者等の借入意識や借入行動に関する調査結果報告」では、貸金業者のサービスを利用したところのある人の男女比は、男性が63.1%・女性が36.7%とされており約6：4の割合であるとされています。

また、大手カードローン会社の中にはレディースローンやマタニティローン、配偶者貸付、女性オペレーター対応の女性専用ダイヤルなど、女性向けサービスを提供している会社もありますので、「女性だからカードローンを使いづらい」ということは決してありません。

消費者金融利用者の年齢層



	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳
人数	10名	35名	162名	280名	147名	44名
割合	1.47%	5.16%	23.89%	41.30%	21.68%	6.49%

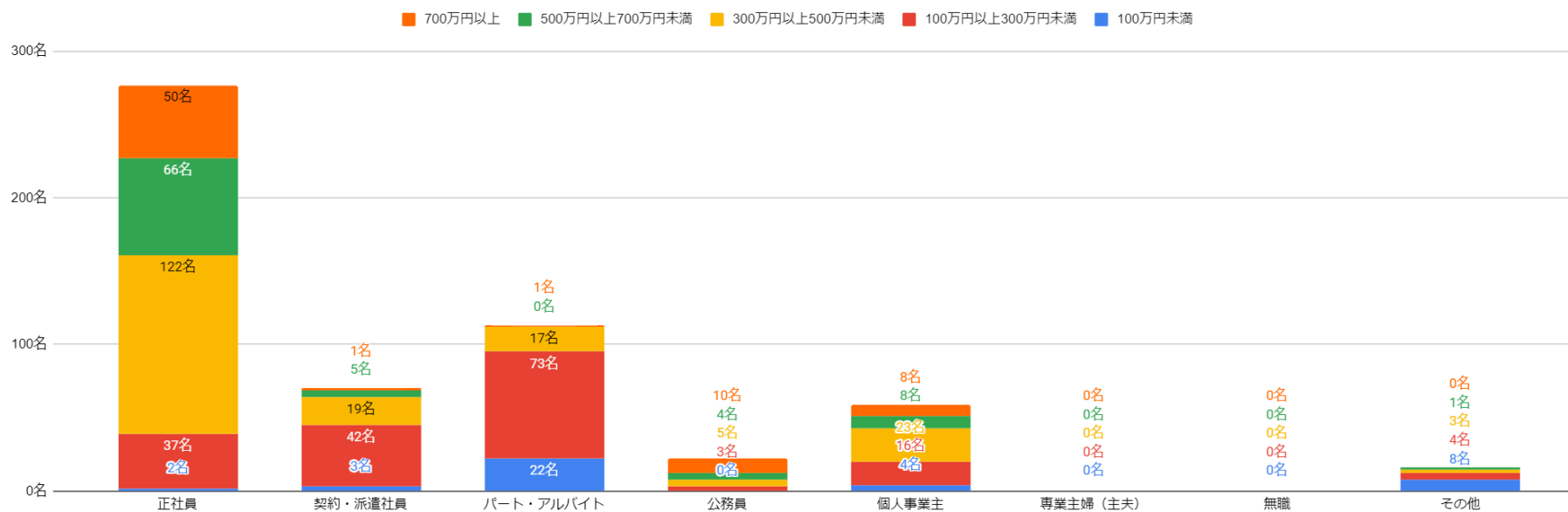
※アンケート対象者全員に年齢をご回答いただき、その中で消費者金融を「一度だけ利用したことがある」「何度も利用している」と回答した全員を対象に、年代を算出しています。

今回のアンケート本調査においては、消費者金融を利用したことのあるすべての年代の中で50～59歳の50代の方が一番多いという結果となりました。一般的に安定して高い収入があり、かつ公私ともに支出が多い世代でもありますので、この結果は頷けるものといえるでしょう。

その逆に20代～30代は他の年代と比べ、回答者が少ないという結果となりました。これは、「借金は良くないこと」という意識の変化が影響している可能性があります。しかし、クレジットカードなども含めて借金を一切しない生活は、個人信用情報機関に取引の履歴が一切掲載されないことを示します。これを俗にスーパーホワイトと言います。この状態は、将来住宅ローンや車のローンなど大きい買い物をする際に、「遅延なく返済する人であると信用できる」情報がないため、却ってローンを組みにくくなる可能性があることに注意が必要です。消費者金融カードローンでの利用に限らず、予算の範囲内でクレジットカードやローンを組むことは現代社会では推奨されるといえるでしょう。

今回のアンケート調査は、アンケート回答時の情報を記入していただいておりますので、借入時の情報とは限らないことに留意する必要があります。消費者金融カードローンには借り入れできる対象年齢が設定されています。対象年齢は会社によって異なりますが、申し込み条件を20歳～72歳というように制限している会社もあります。高齢化社会・定年退職の年齢引き上げによる高齢者の雇用が一般化されているなどの社会情勢も踏まえて申し込み条件の年齢を引き上げる会社もありますが、収入が年金のみの方は申し込めない場合がほとんどであることも踏まえ、70～79歳の方の44名は回答時の年齢で借り入れたとはいえない可能性が高いです。

消費者金融利用者の雇用形態・年収



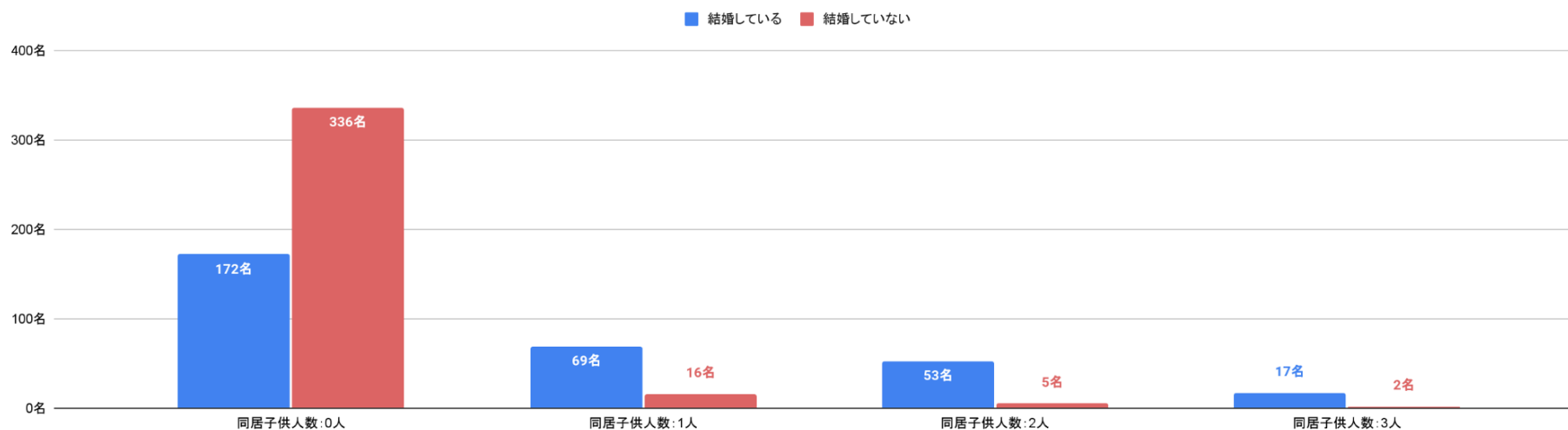
	100万円未満	100万円以上300万円未満	300万円以上500万円未満	500万円以上700万円未満	700万円以上	合計
正社員	2名	37名	122名	66名	50名	277名
契約・派遣社員	3名	42名	19名	5名	1名	70名
パート・アルバイト	22名	73名	17名	0名	1名	113名
公務員	0名	3名	5名	4名	10名	22名
個人事業主	4名	16名	23名	8名	8名	59名

専業主婦（主夫）	0名	0名	0名	0名	0名	0名
無職	0名	0名	0名	0名	0名	0名
その他	8名	4名	3名	1名	0名	16名
合計	39名	175名	189名	84名	70名	557名

※アンケートで消費者金融を「一度だけ利用したことがある」「何度も利用している」と回答した全員の、職業と個人年収を抽出し、グラフと表で可視化しています。

消費者金融利用者は雇用形態が正社員が277名と全体の中で最も多く、年収は300万円以上500万円未満が一番多い結果となりました。雇用形態と年収のかけ合わせた結果でも、正社員かつ年収300万円以上500万円未満が最も多い組み合わせとなります。厚生労働省が発表した「[令和4年賃金構造基本統計調査の概況](#)」、「毎月勤労統計調査 令和4年9月分結果」、「毎月勤労統計調査 令和5年2月分結果」によると、年収の中央値は約396万円でした。

消費者金融利用者の家族構成



	結婚している	結婚していない
同居子供人数：0人	172名	336名
同居子供人数：1人	69名	16名
同居子供人数：2人	53名	5名
同居子供人数：3人	17名	2名

※アンケートで消費者金融を「一度だけ利用したことがある」「何度も利用している」と回答した全員を対象に、婚姻の有無と同居している子供の人数を抽出し、グラフと表で可視化しています。

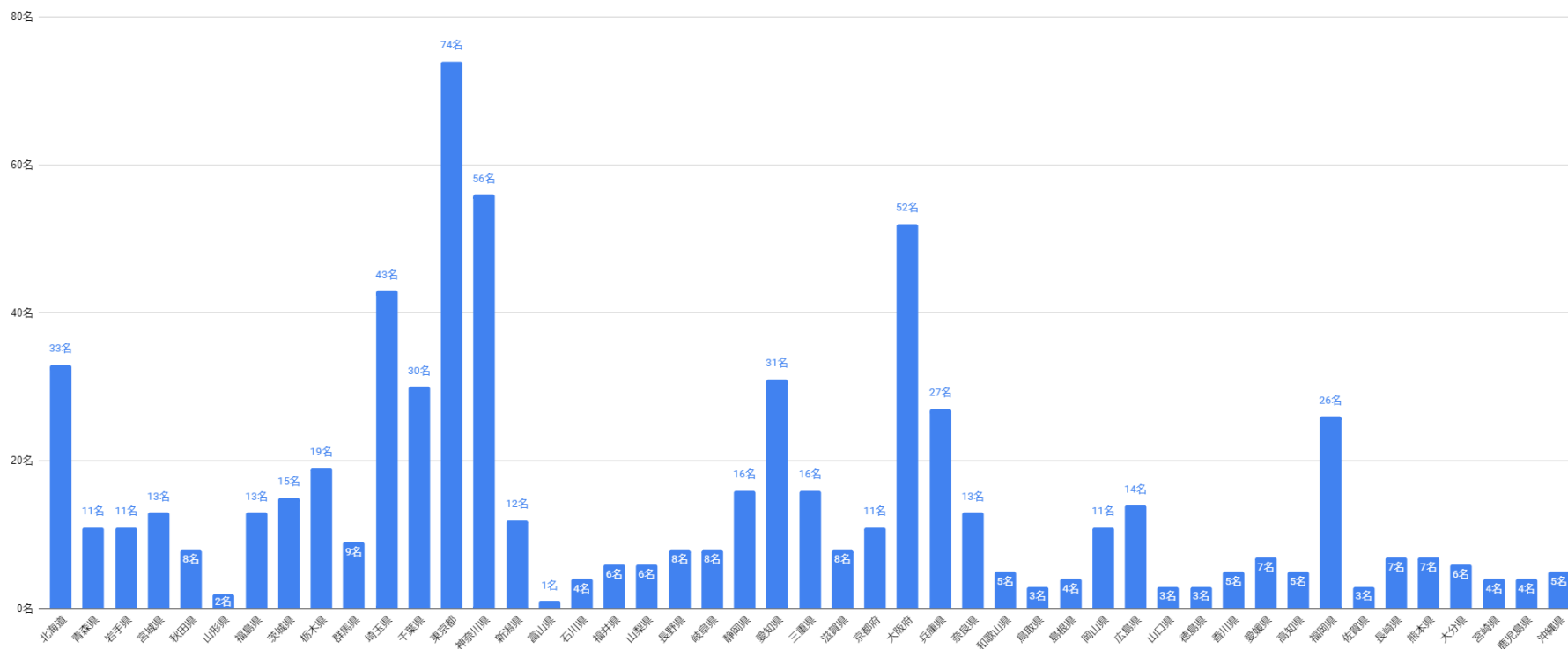
消費者金融利用者の家族構成に関するアンケートでは「結婚している」が172名に対し、「結婚していない」が336名となりました。カードローンは即日融資に対応しており、また申込みから返済までWebで完結できる場合が多いことから、「手軽にお金を借りることができる」サービスともいえます。

そのため突発的なイベントでの出費から、日頃の生活費などカードローンは様々なシチュエーションで利用できます。

「結婚していない」と回答した人が多いのは、生活費や冠婚葬祭といった個人での出費に利用されることが多いと考えられます。またアンケート結果から「結婚している」と回答した中で、子供のいる家庭でも利用者が多い傾向にあります。

これは同居する子供がいる分、突発的な出費が増えるからでしょう。一方で子供に関する出費では国の支援金を受け取るという選択肢もあることから、消費者金融カードローンの利用シーンは個人レベルのことが多いと考えられます。

消費者金融利用者のお住まいの地域



北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
33名	11名	11名	13名	8名	2名	13名	15名	19名	9名	43名	30名	74名	56名	12名	1名	4名	6名	6名	8名	8名	16名	31名	16名
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
8名	11名	52名	27名	13名	5名	3名	4名	11名	14名	3名	3名	5名	7名	5名	26名	3名	7名	7名	6名	4名	4名	5名	

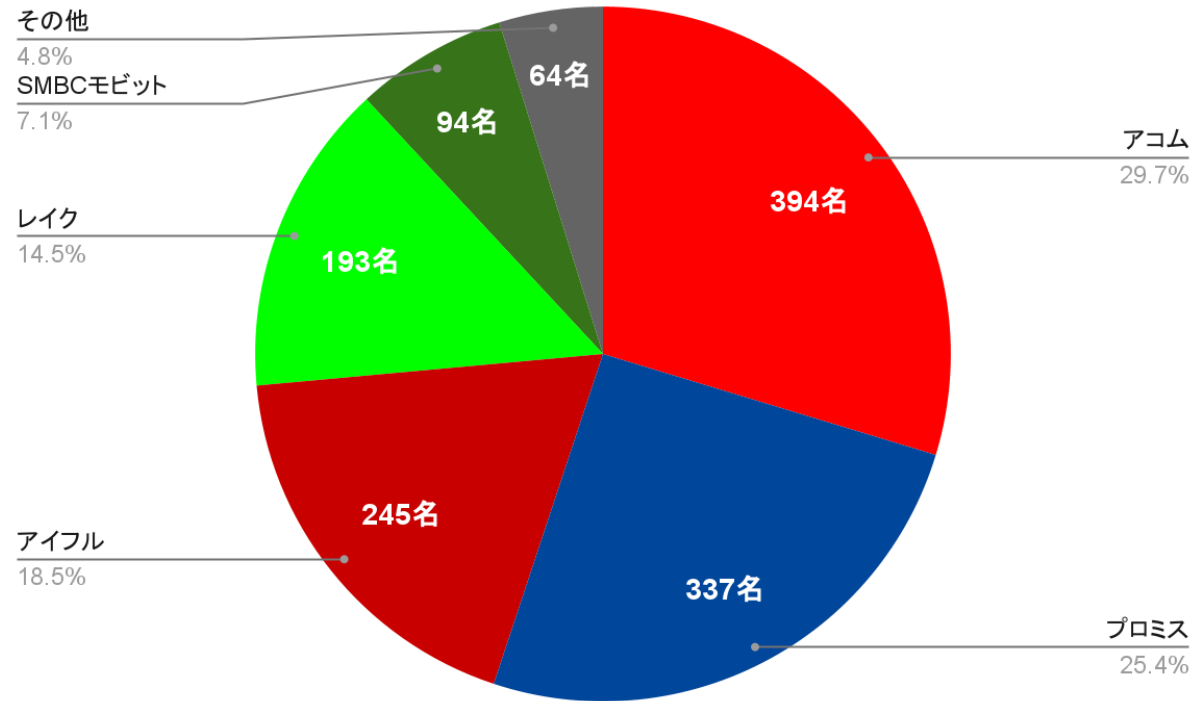
※アンケートで消費者金融を「一度だけ利用したことがある」「何度も利用している」と回答した全員を対象にお住まいの地域を抽出し、グラフと表で可視化しています。

消費者金融利用者のお住まいの地域に関するアンケートでは、都市と都市近郊に利用者が集中している結果となりました。大手の消費者金融は全国展開している他、Web完結するサービスであるため、人口が集中する地域と直結する形になったと考えられます。

ただし今回のアンケートは借入時の情報とは限らないので、別の地域で利用し、その後都市部に転居した場合もあります。アンケート結果が極端に都市部や人口の多い地域に偏ってしまったのはそういった点も影響しているでしょう。

消費者金融カードローンについて

借入の際に選んだ消費者金融の割合



アコム	394名
プロミス	337名

アイフル	245名
レイク	193名
SMBCモビット	94名
その他	64名

※その他（自由回答）64件には、LINEポケットマネーやセントラルなどの中小消費者金融や、既に消滅した消費者金融などが含まれていましたが、銀行系カードローン・クレジットカードのキャッシング機能・農協金融・住宅金融公庫など消費者金融ではない回答や「忘れてしまった」「名前がわからない」などの回答も含まれることをご留意ください。

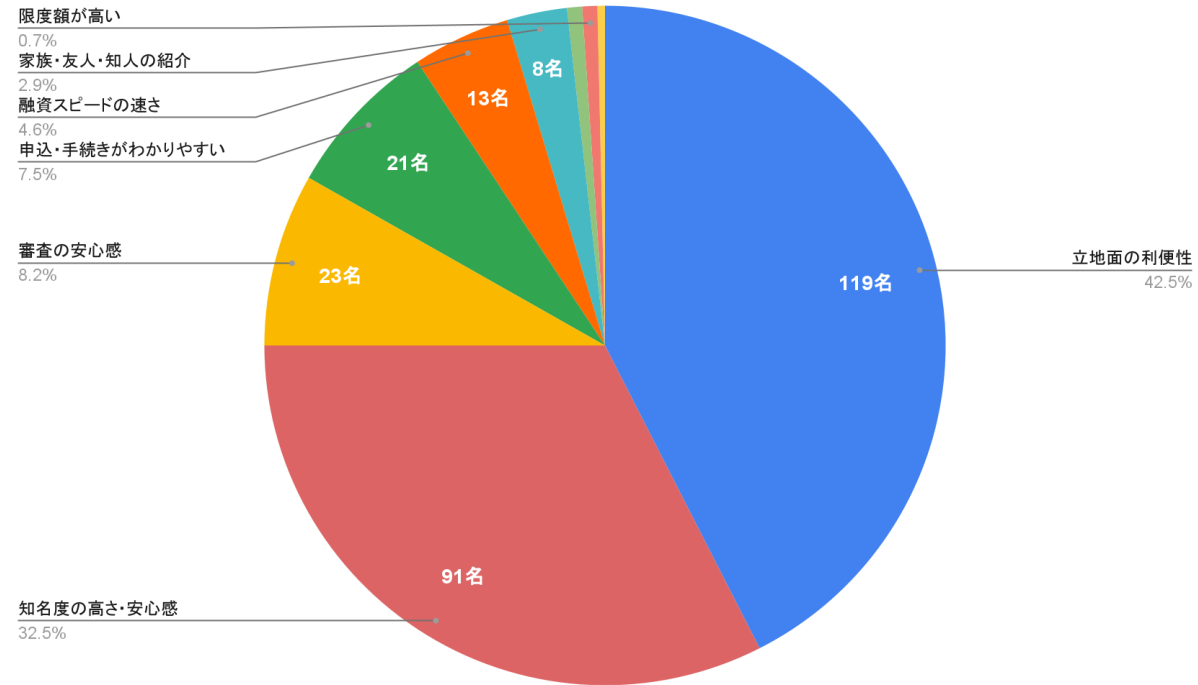
アンケート回答者の中で最も多く利用されている消費者金融カードローンはアコム、次いでプロミス、アイフルと続く結果になりました。またアンケート結果の90%近くはいわゆる大手消費者金融と呼ばれる業者が並んでいます。

大手消費者金融の最大の特徴は、最短数分から数十分で審査が完了し、融資可能となるスピード感とWebで申込みから返済まで完結できる手軽さの2つが挙げられます。全国どこからでも利用できるという点が、アンケート結果の大半を大手消費者金融が占めた理由でしょう。

中でもアコムやプロミスは積極的なプロモーションによって知名度が高いこともあり、アンケート結果全体の半分以上を占めたのだと考えられます。

各消費者金融別の選んだ理由

アコムを選んだ理由



立地面の利便性	119名
知名度の高さ・安心感	91名
審査の安心感	23名

申込・手続きがわかりやすい	21名
融資スピードの速さ	13名
家族・友人・知人の紹介	8名
無利息期間	2名
限度額が高い	2名
金利面の条件	1名

アコムが選ばれた理由の1位は「立地の利便性」2位は「知名度の高さ・安心感」という結果になりました。

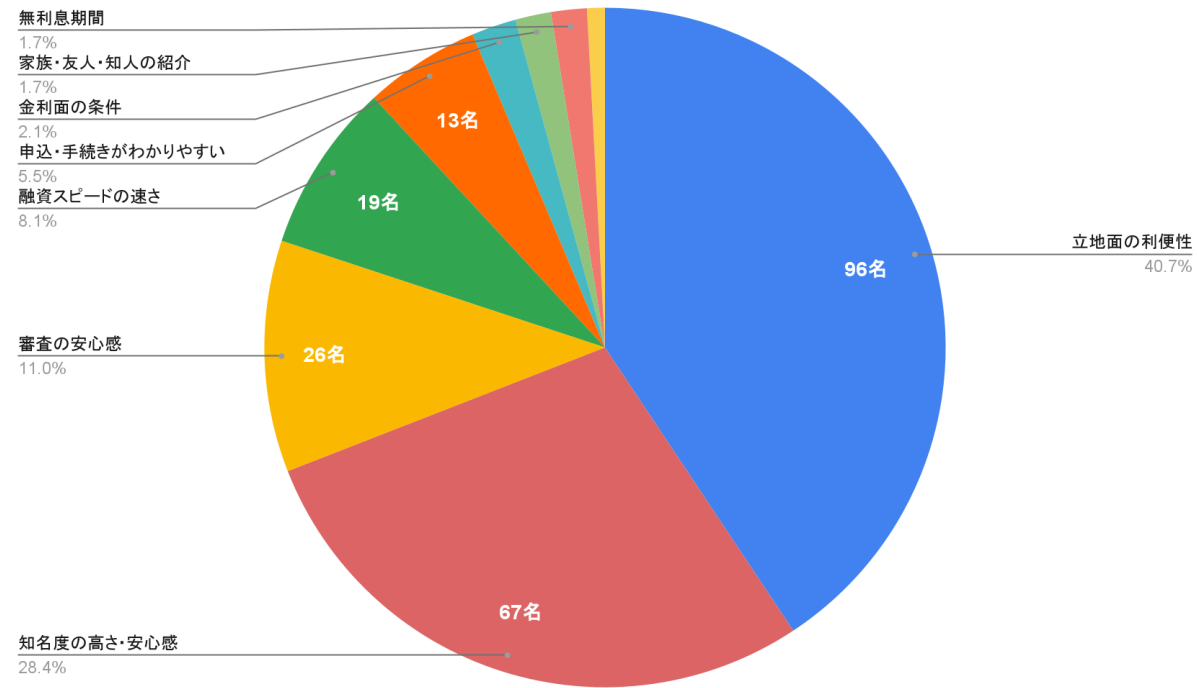
アコムは全国的に展開している大手消費者金融であり、Web完結で利用できる他にも、全国各地に自動契約機（むじんくん）を設置しています。その設置数は893台（※2021年3月現在）であり、利用者数2位であるプロミスの492台（※2024年2月時点）と比べても圧倒的に多く、利便性に富んでいます。

特に申込手続きに不安がある方は、手厚くサポートを受けることができる自動契約機（むじんくん）であれば安心して手続きをすることができます。知名度という点だけではなく、誰でも安心して手続きが行えるという点は、2位の「知名度の高さ・安心感」の高さにも影響していると考えられます。

参照：[アコム | 自動契約機（むじんくん）・ATMのご案内](#)

参照：[プロミス | 月次データ](#)

プロミスを選んだ理由



立地面の利便性	96名
知名度の高さ・安心感	67名
審査の安心感	26名
融資スピードの速さ	19名

申込・手続きがわかりやすい	13名
金利面の条件	5名
家族・友人・知人の紹介	4名
無利息期間	4名
返済のしやすさ	2名

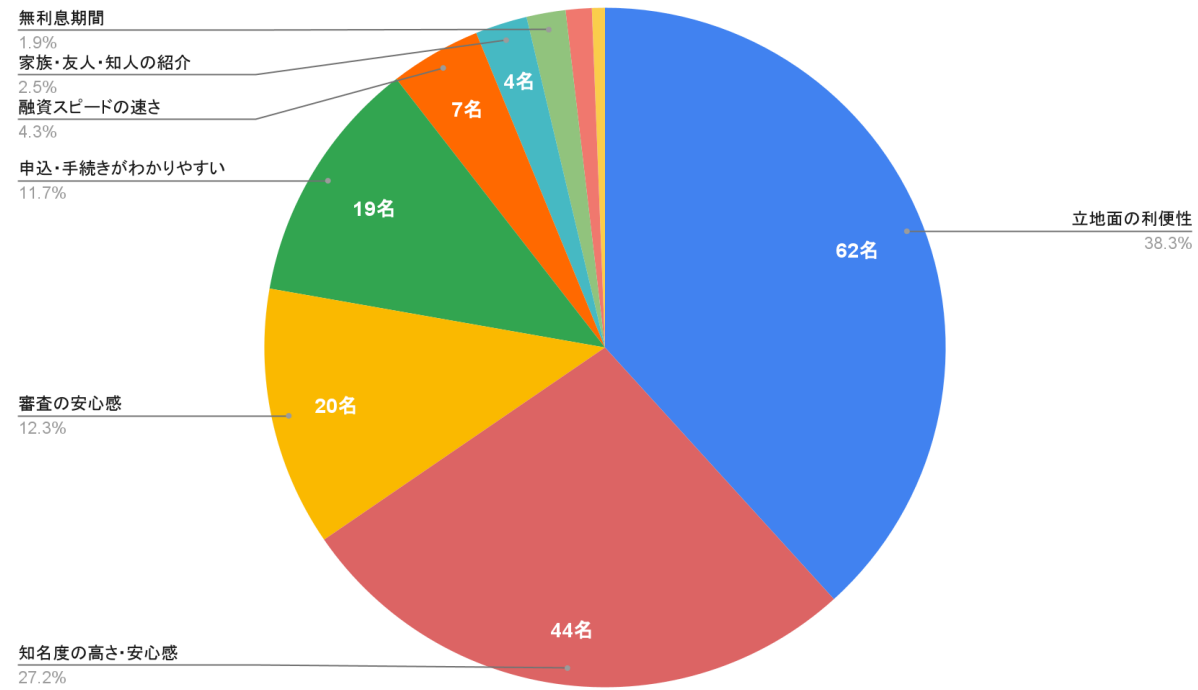
プロミスが選ばれた理由は「立地面の利便性」「知名度の高さ・安心感」もさることながら、他の消費者金融カードローンと比べると「審査の安心感」や「融資スピードの早さ」への票が高めです。

プロミスは最短3分※で融資が可能であり、他の消費者金融と比べても短い審査時間が特徴の消費者金融です。また在籍確認も職場への電話連絡は原則なく、周囲にバレる可能性も低いので、安心して申し込むことができます。

消費者金融の利点は即日融資であり、利用者の多くもそれを1つの目的としていると考えれば、審査に関して強みを持つプロミスの影響が表れたアンケート結果といえます。

※お申込み時間や審査によりご希望に添えない場合がございます。

アイフルを選んだ理由



立地面の利便性	62名
知名度の高さ・安心感	44名
審査の安心感	20名
申込・手続きがわかりやすい	19名

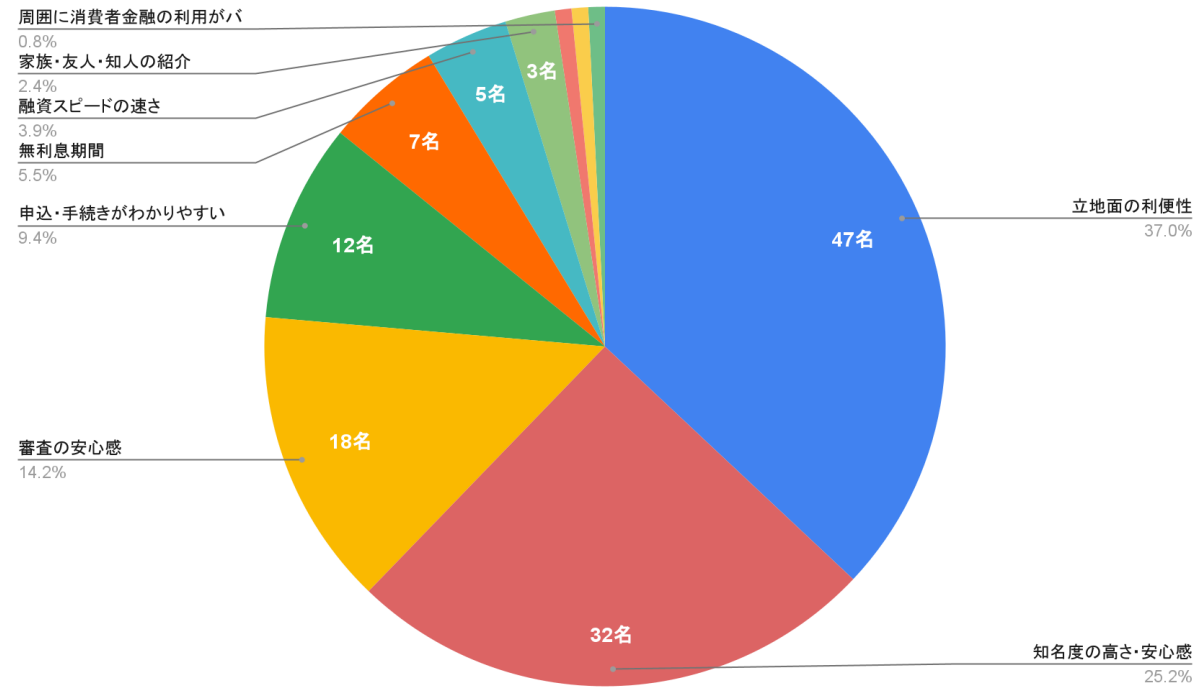
融資スピードの速さ	7名
家族・友人・知人の紹介	4名
無利息期間	3名
周囲に消費者金融の利用がバレにくい	2名
限度額が高い	1名

アイフルが選ばれた理由として、他金融と比べて割合的に多いのは「申込み・手続きがわかりやすい」という項目でした。

アイフルも他の大手消費者金融と同様にWeb完結で申し込むことができます。審査結果もメールで届き、カードレスの場合その後の手続きはスマホアプリで行うことができます。

スマホアプリは起動後1画面の中で借入から返済まで行うことができ、現在の借入状況も一目で確認することが可能です。この一連の手続きに関するユーザビリティの高さがアンケート結果にも反映されたと考えられます。

レイクを選んだ理由



立地面の利便性	47名
知名度の高さ・安心感	32名
審査の安心感	18名
申込・手続きがわかりやすい	12名

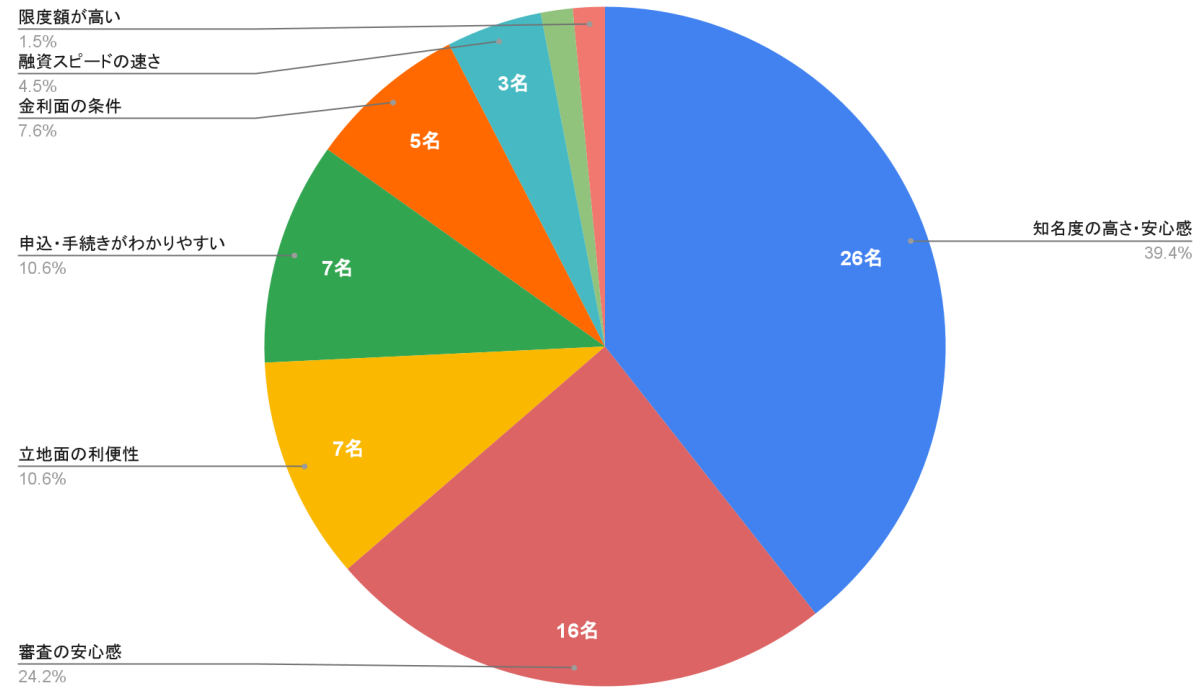
無利息期間	7名
融資スピードの速さ	5名
家族・友人・知人の紹介	3名
金利面の条件	1名
限度額が高い	1名
周囲に消費者金融の利用がバレにくい	1名

レイクが選ばれた理由の1つで、他消費者金融と比べて優れている点は「無利息期間」です。他の消費者金融でも最大30日間の無利息期間を提供しているサービスはありますが、レイクの場合条件を満たせば最大180日間の無利息期間を受けることができます。

大手消費者金融ということもあり、Web完結申込みや即日融資にも対応しているので、通常よりも長い無利息期間内で融資を受けたいという方に選ばれやすいのがレイクです。

アンケート結果においても、他消費者金融カードローンの「無利息期間」の項目と比べて倍近く獲得しているので、無利息期間を重宝する状況の利用者にとって需要の高い消費者金融といえます。

SMBCモビットを選んだ理由



知名度の高さ・安心感	26名
審査の安心感	16名
立地面の利便性	7名

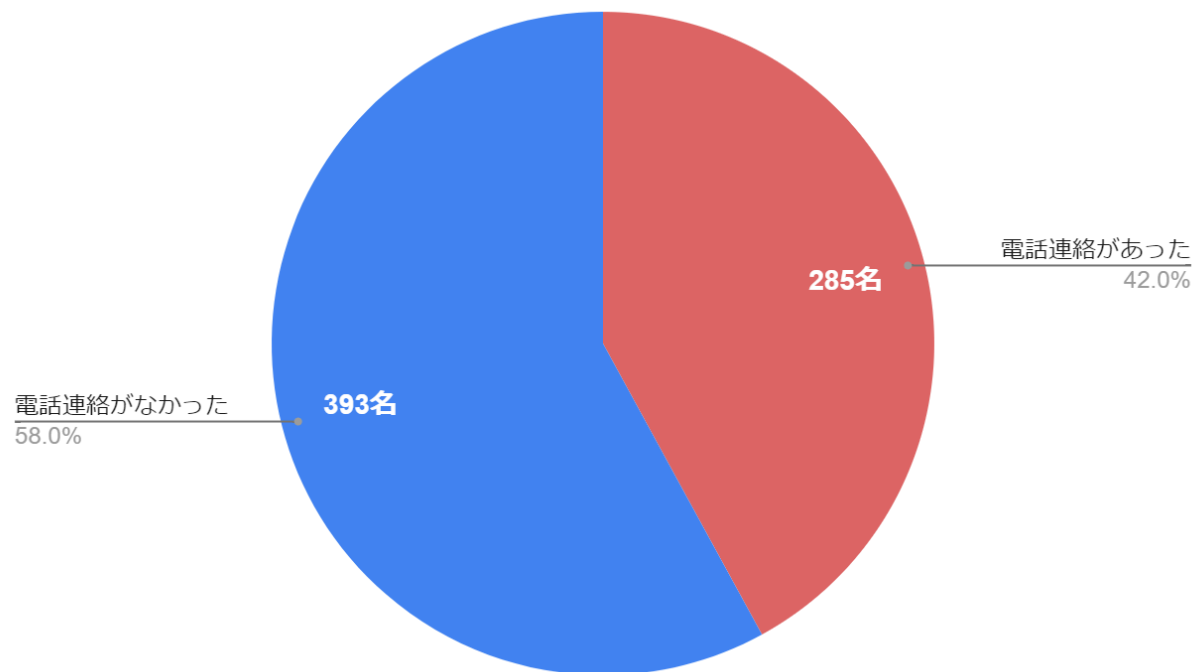
申込・手続きがわかりやすい	7名
金利面の条件	5名
融資スピードの速さ	3名
無利息期間	1名
限度額が高い	1名

SMBCモビットはプロミスと同じSMBCグループの会社であり、知名度・安全性どちらも高く、アンケート結果においても「知名度の高さ・安心感」がより多く選ばれました。

「審査の安心感」という項目も次点で票が多くなっており、これは三井住友カード株式会社としての信頼度の高さや、最短10秒簡易審査で借入可否を申込前におおよそ確認することができる点が影響しているものだと考えられます。

またSMBCモビットのローン契約機は全国の三井住友銀行に設置されており、立地面や申込手続きの面でも優れているという点においても利用者には評価されています。

消費者金融から電話連絡はあったか



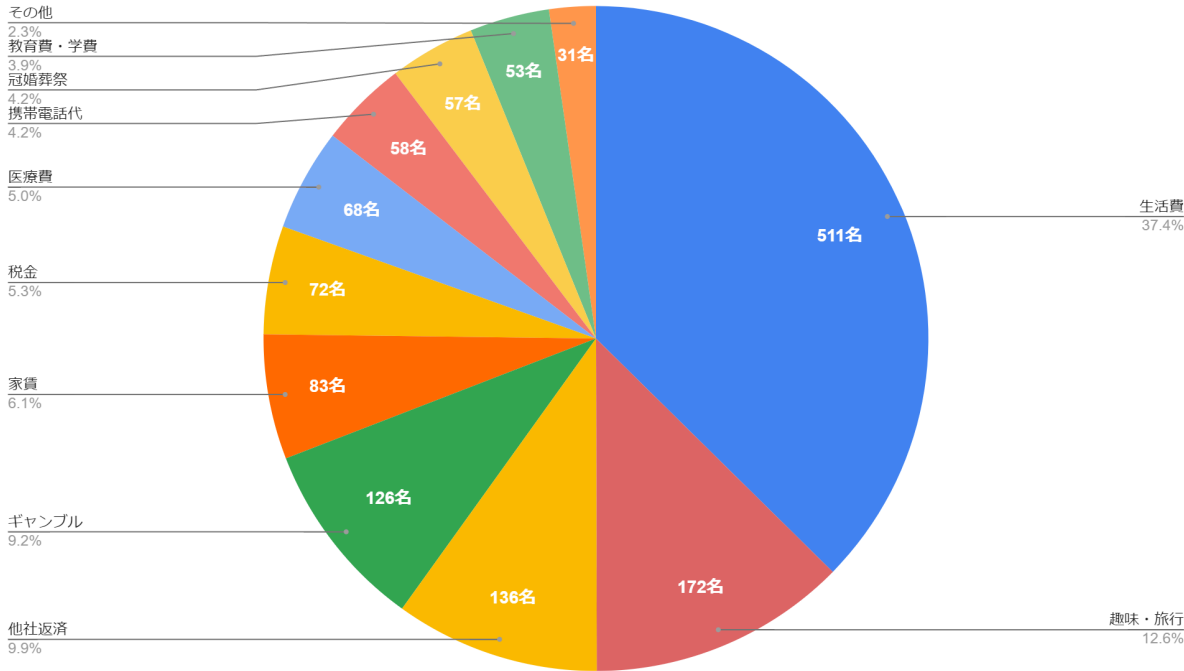
電話連絡があった	285名
電話連絡がなかった	393名

大手消費者金融では原則電話連絡なしで在籍確認を行う場合もあるため、6割近い利用者が「電話連絡がなかった」に票を入れています。

電話連絡があったという利用者は、そもそも電話連絡による在籍確認がある業者を利用している場合や、書類だけでは確認できない場合などが考えられます。また大手消費者金融の中には、Web完結申込のみ原則電話連絡なしで在籍確認を行う業者もあります。そういった事情を踏まえると、原則電話連絡なしの申込を行い、書類が不備なく在籍確認に十分な内容が含まれていれば、電話連絡なしで利用できていることが分かります。

[原則在籍確認なしと明言するアコム](#)のように、今後さらに審査のプロセスが最適化されていけば、電話連絡なしで利用できる割合がより多くなると考えられます。

消費者金融カードローンの利用・使用用途



生活費	511名
趣味・旅行	172名
他社返済	136名
ギャンブル	126名

家賃	83名
税金	72名
医療費	68名
携帯電話代	58名
冠婚葬祭	57名
教育費・学費	53名
その他	31名
投資	21名
合計	1,388名

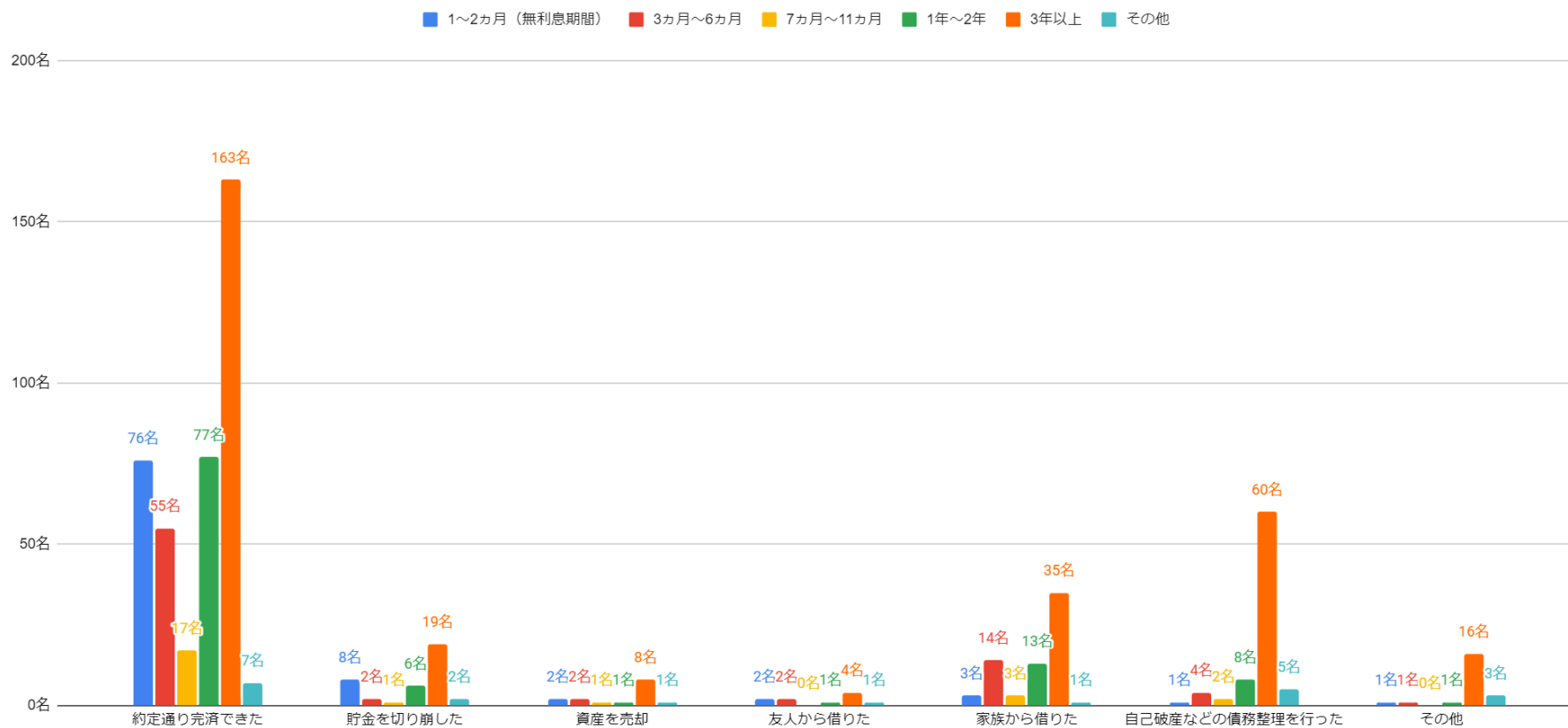
消費者金融カードローンの利用目的は自由であり、利用者はさまざまな用途に使用しています。

その中でも圧倒的に多くを占めたのは「生活費」です。カードローンは手軽に利用できるという点で優れており、「生活費」やちょっとした出費でこそ活用されることが多いということがアンケートの結果に反映されたものだと考えられます。

次点で「趣味・旅行」が多いのも、少しまとまったお金が必要というシチュエーションでカードローンが利用しやすいからでしょう。「他社返済」に関しては、言葉通り借りたお金を返済に当てているという場合もありますが、消費者金融の中には返済用の金融商品である「おまとめローン」を提供している業者もあります。

今回のアンケートでは消費者金融のどのサービスに焦点を当てるかを指定していないため、「おまとめローン」利用者においても今回の結果に影響していると考えられます。

返済方法別の返済期間がどれくらいかかったか



	1~2ヵ月	3ヵ月~6ヵ月	7ヵ月~11ヵ月	1年~2年	3年以上	その他
--	-------	---------	----------	-------	------	-----

約定通り完済できた	76名	55名	17名	77名	163名	7名
貯金を切り崩した	8名	2名	1名	6名	19名	2名
資産を売却	2名	2名	1名	1名	8名	1名
友人から借りた	2名	2名	0名	1名	4名	1名
家族から借りた	3名	14名	3名	13名	35名	1名
自己破産などの 債務整理を行った	1名	4名	2名	8名	60名	5名
その他	1名	1名	0名	1名	16名	3名

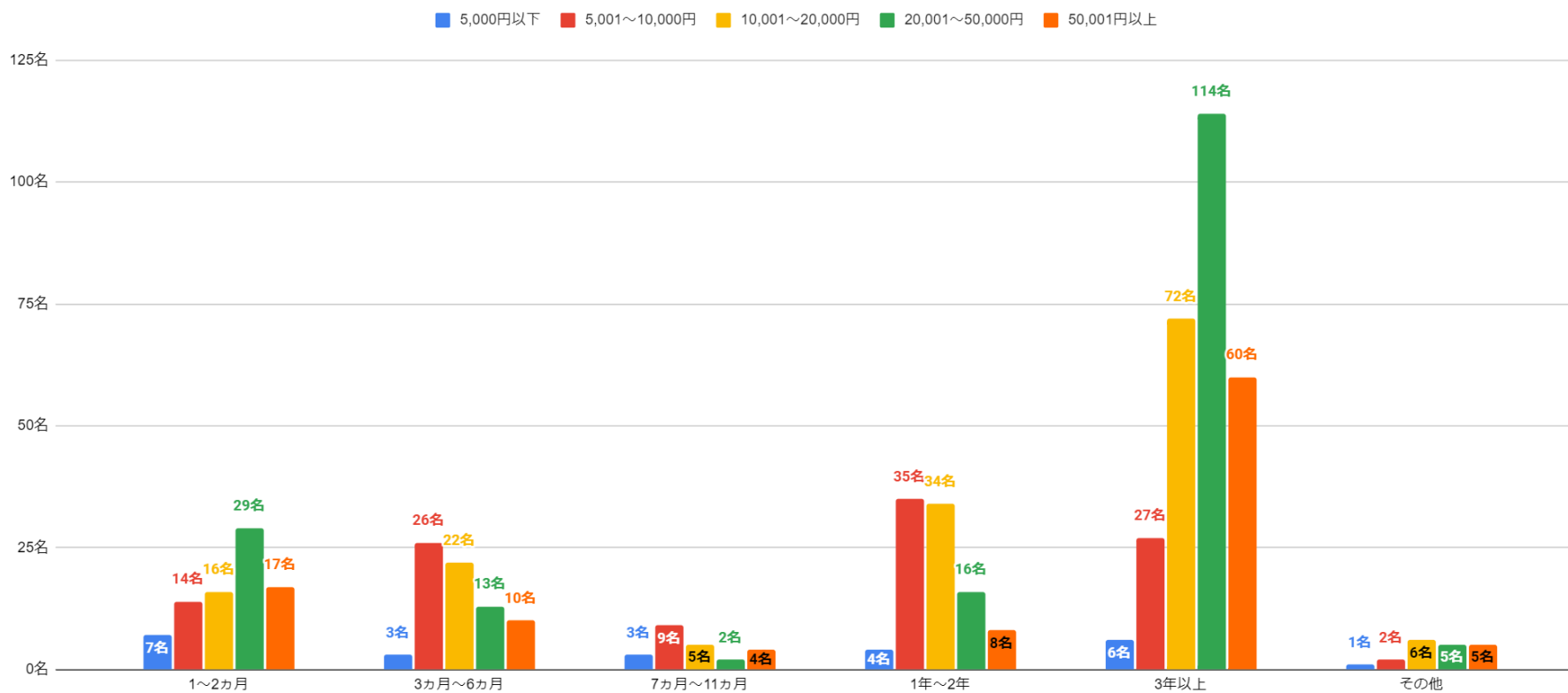
返済方法別に返済期間を集計した上記のデータでは、回答者のほとんどが約定通りに完済できていることが分かります。最終的に自己破産などの債務整理を行った利用者はごく少数で、これは消費者金融の審査精度の高さが伺えます。

返済期間は「3年以上」の回答が最も多く、次いで「1年～2年」「1～2ヶ月」という極端な分布となっています。これは消費者金融が提供するサービスの中に契約後あるいは借入後から一定の無利息期間が設けられていることによる少額融資・短期的融資に向いているという側面もあるからと考えられます。

消費者金融カードローンの金利は銀行系カードローンと比べて高めに設定されていますが、一括返済以外にも借入額に応じた月々の返済も可能です。分割の返済にすることによって一回あたりの返済負担を軽減させるためのものですが、一方で時間が経てば経つほど利息分が増えるという仕組みとなっています。

そのため予め少額融資や返済プランが整った上での利用でない場合、返済期間が3年以上と長引いてしまうのはある種必然といえます。

毎月の返済額と、その額で返済期間がどれくらいかかったか



	5,000円以下	5,001～10,000円	10,001～20,000円	20,001～50,000円	50,001円以上
1～2ヵ月	7名	14名	16名	29名	17名
3ヵ月～6ヵ月	3名	26名	22名	13名	10名
7ヵ月～11ヵ月	3名	9名	5名	2名	4名
1年～2年	4名	35名	34名	16名	8名
3年以上	6名	27名	72名	114名	60名
その他	1名	2名	6名	5名	5名

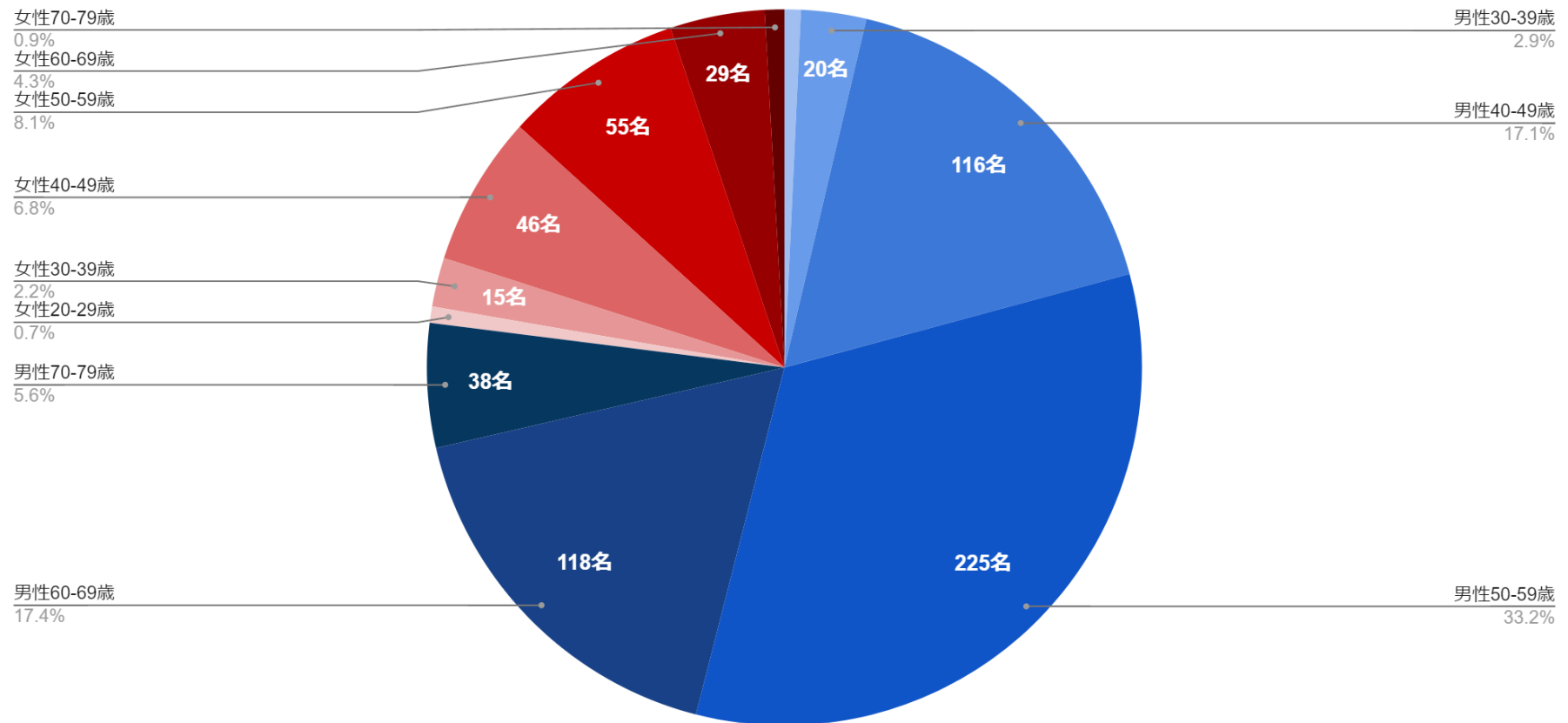
上記のデータは返済額と返済期間についてまとめたものである、アンケート回答者が最も多く該当したのは「20,001～50,000円」を月々に返済し「3年以上」の期間を必要としたという結果になりました。

消費者金融カードローンは、借入額に応じた金額を月々に返済するという形式を取っており、多くの利用者がその形式に従って返済を行っていることが上記データから読み取れます。

また金額に少しブレがみられるのは、消費者金融カードローンが月の返済額の最低金額は決めているものの、上限は決めず利用者の返済しやすいタイミングで返済してもらうことを推奨しているからだと考えられます。

アンケート調査のまとめ・総評

最も多かった性別・年齢層は50代男性



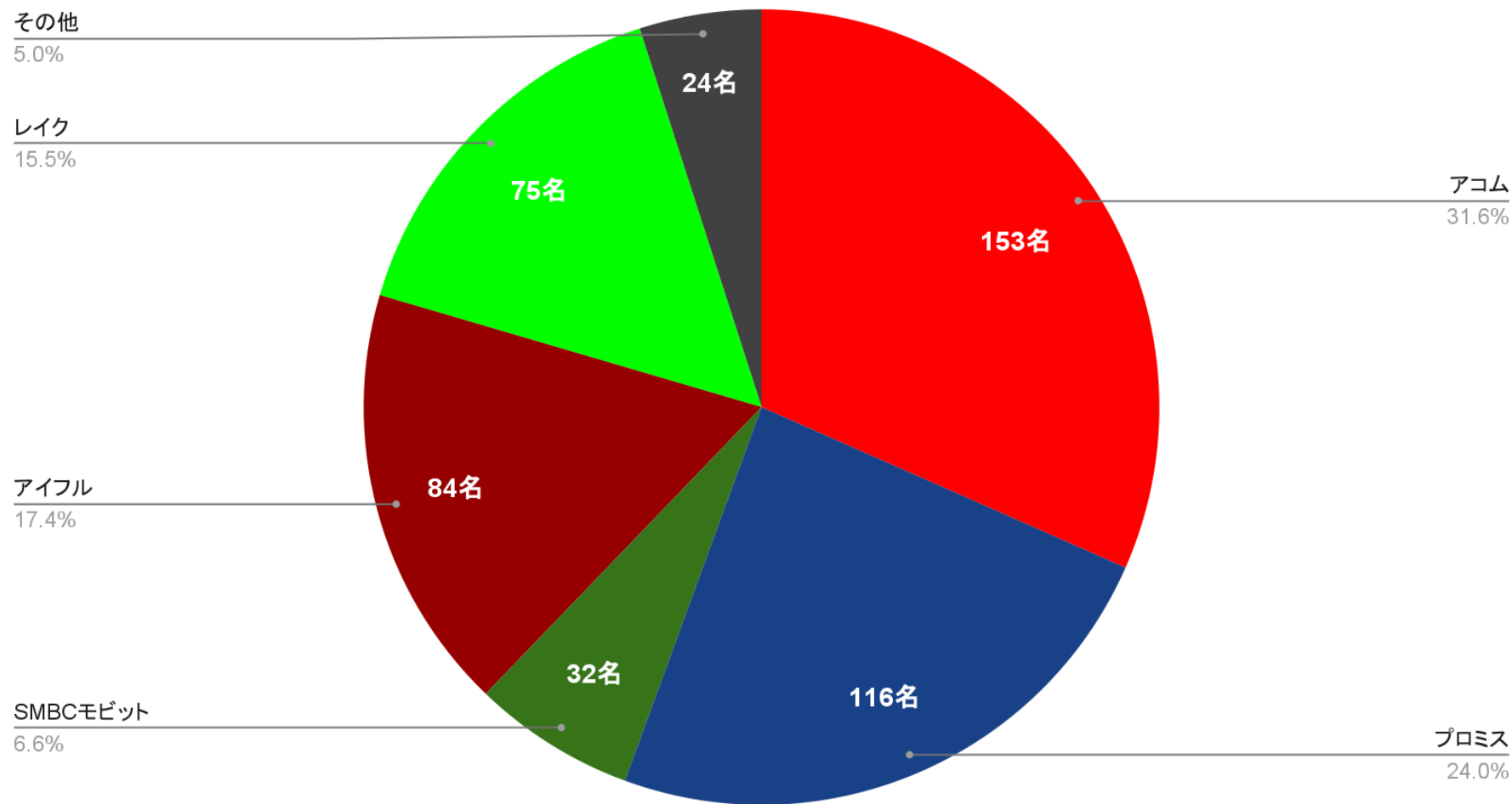
	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳
男性	5名	20名	116名	225名	118名	38名
女性	5名	15名	46名	55名	29名	6名

消費者金融の利用者で最も多かったのは「50代の男性」という結果が、アンケートの集計から判明しました。カードローンの審査では安定した収入があるかどうかで返済能力の高さを図ります。

その点50代の男性というのは安定した収入を持つ一方で、様々な場面で支出が必要となるため、カードローンを利用するための状況が最も整っている世代だと考えることができます。

ただし今回のアンケートにおける年齢は、あくまでも回答時の年齢です。若年層の利用者の少なさや、申込年齢条件から外れた範囲を含む「70～79歳」と回答しているといった部分には、「実際に借り入れした時の年齢とは異なる」という事情も反映されていることも予めご了承ください。

50代男性がよく利用する消費者金融カードローンは「アコム」と「プロミス」



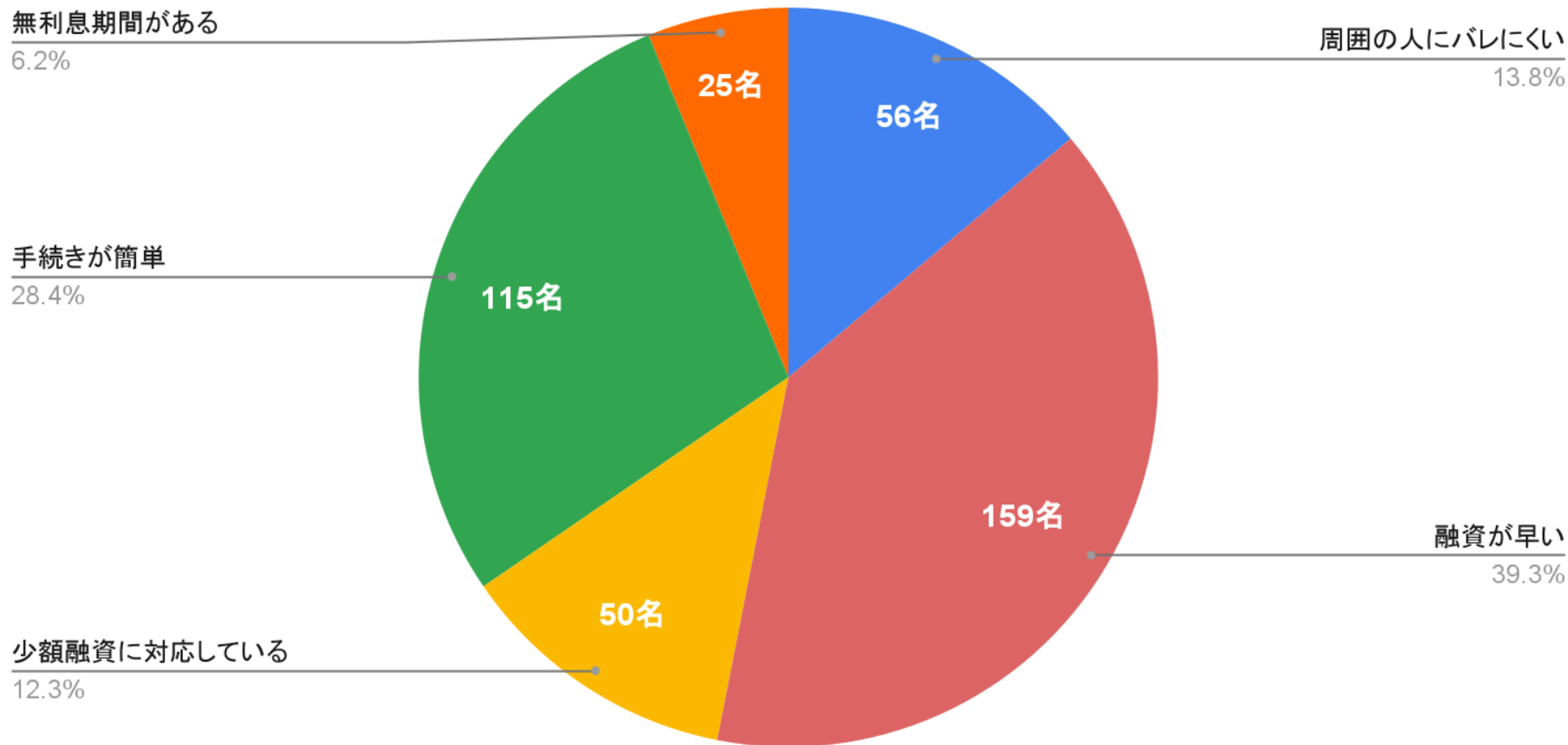
	アコム	プロミス	SMBCモビット	アイフル	レイク	その他
男性50-59歳	153名	116名	32名	84名	75名	24名

利用者数が最も多い「50代男性」世代が利用する消費者金融カードローンも「アコム」「プロミス」が特に多いという結果になりました。

アコム・プロミス共に知名度も高く、大手消費者金融の中でも利用者が多いため、世代関係なく利用しやすいカードローンといえるからだと考えられます。全体のデータと比較すると、アコムの割合が少し多めなのは、知名度という点で優れている他、自動契約機（むじんくん）の設置台数の多さなど申込みへのアクセスが容易な点も要因として考えられます。

特に50代男性の世代であれば、比較的最近導入されたWeb完結申込よりも、従来のカードによる借入れの方がカードローンのイメージとしては根付いていると考えられます。そのため全国各地で利用しやすいアコムに票が集まるのも頷ける結果といえるでしょう。

50代男性が消費者金融カードローンを選ぶ理由は「融資が早い」「手続きが早い」から



周囲の人にバレにくい	56名
融資が早い	159名

少額融資に対応している	50名
手続きが簡単	115名
無利息期間がある	25名

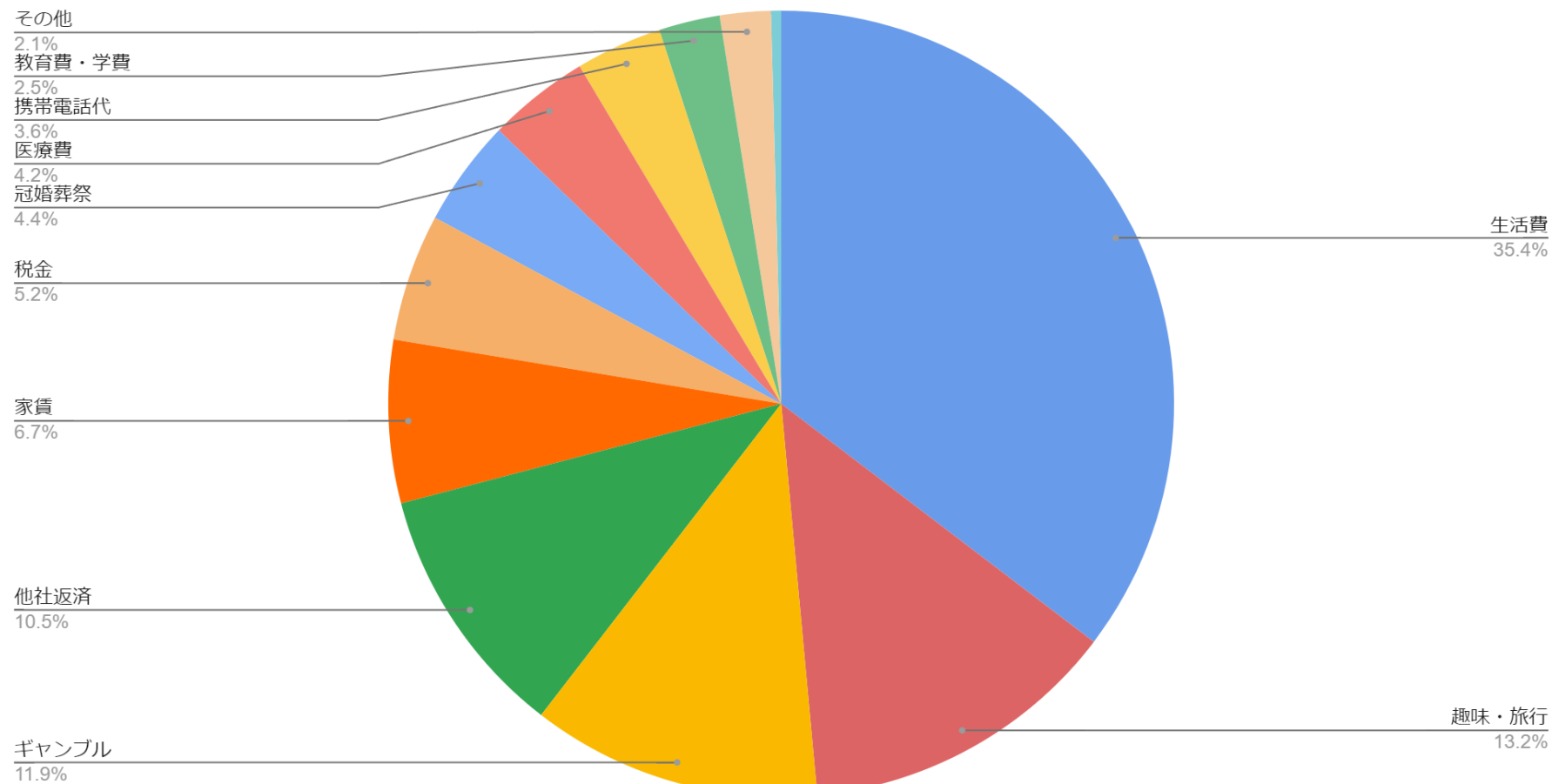
50代男性が選ぶ消費者金融カードローンを選ぶ理由は「融資が早い」次いで「手続きが簡単」であり、その2つが半数以上の割合を占めるという結果になりました。

安定した収入から返済能力を一定水準以上確保することができる「50代男性」の利用者にとって、カードローンを利用する理由は無利息期間や返済に関することよりも、即日融資への対応や手続きの容易さに重きを置いていることが、上記のアンケート結果から分かります。

また少額融資への対応や無利息期間の有無に関する票が少なかったことから、50代男性の利用者はある程度多くの金額の借入れが目的であることを示しています。

消費者金融別の選んだ理由に関するアンケート結果でも見られた傾向の1つとして、「周囲の人にバレにくい」という点はあまり重要視はされていないという結果が出ています。大手消費者金融カードローンでは「原則電話連絡がないから周囲にバレにくい」という点を押し出していますが、今回のアンケート結果から考えると、原則電話連絡なしというのは利用者にとって「書類のみで手続きが楽になる」や「職場に手間をかけさせることがない」という点で重宝されているという可能性も考えられるかもしれません。

50代男性の消費者金融カードローンの使用目的は「生活費」が最多



生活費	169名	冠婚葬祭	21名
-----	------	------	-----

趣味・旅行	63名	医療費	20名
ギャンブル	57名	携帯電話代	17名
他社返済	50名	教育費・学費	12名
家賃	32名	その他	10名
税金	25名	投資	2名

「50代男性」利用者の消費者金融カードローンの借入れ理由は全体のアンケートと同じく「生活費」が多くを占めました。50代男性が消費者金融を選ぶ理由では「少額融資に対応している」を選んだ利用者は少なかったですが、使用用途は「生活費」という細かい出費に対するものが多いという結果です。

これは消費者金融カードローンの多くが、借入限度額以内であれば何度でも追加で借入れができるというサービスを提供していることが要因の1つだと考えられます。

お金が必要になったタイミングで毎回申し込んで審査するよりも、カードローンに申込み、借入限度額内で都度借入れを行う方が楽であることは自明です。

利用用途が自由で即日融資が可能な消費者金融だからこそ可能な利用方法といえるでしょう。

免責事項

当資料の作成にあたり、可能な限り情報の正確性を心がけていますが、掲載情報の無謬性・最新性・過不足がないことを保証するものではありません。

カードローンの契約を検討する際は、必ず商品紹介とご契約内容を各利用者様でご確認いただき、お申込・ご契約いただくようお願いいたします。また、リンクURL先のWebサイトで提供される情報・サービスについても当サイトでは責任を負いかねます。各利用者様の責任のもとでご利用いただくことをご了承ください。